廣福寺だより

平成30年10月







境内の子どもたち

かつて寺の境内は、子どもの遊び場でした。住職が幼かった昭和の三十年代、広福寺の境内は、夕方暗くなるまで子どもたちでいっぱいでした。今思えば「団塊の世代」と、後に名づけられる子どもたちでした。

缶けりをしたり、木登りをしたり、ゴムボールを手で打つ野球をしたり。時にはジョウセンバ（定専坊）の山の斜面に子どもだけですべりに行ったりして、今の親が見たらぞっとするような遊びもたくさんありました。しかし、そんな遊びの中で、年長者がけんかをおさめたり、下の子のめんどうをみたりと、無意識の秩序がありました。

広福寺では、前の住職が習字教室を長い間続けました。「習字が終わると、おやつを食べてみんなで遊んでから帰るのが楽しみでした」と当時通ってくれた人たちが、なつかしく語って下さいます。

今は当院と若坊守が、男先生、女先生として、広福寺子ども会「広大会」をはりきって毎月続けています。

秋期彼岸会 合同年忌法要

九月二十三日（日）秋晴れのもと、秋期彼岸会、ならびに合同年忌法要が勤まりました。

広福寺では今年からの試みとして合同年忌法要を営むことにしました。十三回忌以降の法事があたっている方を対象にご案内を致しました。本堂でご参加の皆さんと共に法事のお勤めをしました。



彼岸会・子ども会も併せて行いましたので、五十名を超える方々と共に「舌々正信偈」のお勤めをしました。その後、住職が登壇し、合同年忌法要の方の法名を読み上げました。

続いて『仏説無量寿経』の読経の際に順番に焼香して頂きました。

お勤めの後は休憩をはさみ、住職が法話をしました。子ども会の児童も一緒に聴聞してくれました。

法話終了後、皆さんで庫裏でのお斎となりました。子どもたちはお代わりもしていました。





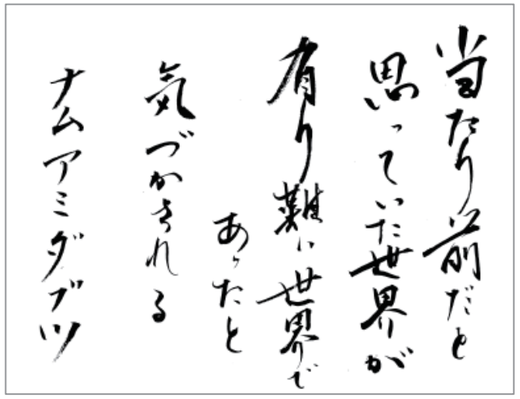
㊧皆さん一緒に正信偈を唱和しました



㊨子どもたちも一緒にお斎を頂きました







●住職法話●

「当たり前」から「有り難い」への転換

亡くなって初めてわかる

「亡くなって初めてわかる親心」という川柳があります。親を亡くされた方は、共感されると思います。親が生きているときには、なかなか有り難みを実感できないけれど、亡くなってみると親の恩が思い出され、初めてはっきりとしてくるということ。

逆に言えば、ふだんいっしょに暮らしているときには、家族がいて当たり前、と私たちは錯覚しているということです。

父が生きているときに、私もさまざまなことを教えてもらっていました。寺の行事の準備のしかた、親戚関係に、法事の案内のしかた……。しかし、いつでもまた聞けると思っていたので、今思えば恥ずかしいのですが、父が話をしているときに、私はさぞ面倒くさそうな顔つきをしていたのではないかと思います。

父が亡くなって住職を継いでみると、寺の最終責任者になっていることに気づいてはっとします。そして、行事の折々に「これは父が教えてくれたことだったなあ」とさまざまなことを伝えられていたことに気づいて、頭が初めて下がるのです。

「当たり前」から「有り難い」へ

「有り難い」ということばは「有る」ことが「難しい」ということです。そこに存在することが難しいこと、そのことに気づかされたということです。少しも当たり前ではなかったということ。

私たちは、大切な人を亡くしたときに、初めてその人の本当の大切さに気づきます。そしてすなおに手が合わさります。いっしょにこの世界で出遇ってご縁をいただいたことは、少しも当たり前ではなかった。本当に有り難いことであったと。

しかし、まだそこに、「半分」私たちが忘れていることがあります。亡くなった方にすなおに合わさっているその手が、現在進行形の自分自身のいのち、そして今、私の隣にいる方たちのいのちに、すなおに向いているのだろうか。

「ナムアミダブツ」というお念仏は、今現在を生きる私自身への、深い喚び声です。

お寺に響く子どもたちの声

毎月一回、子ども会を開催しています。本堂に入ると、まずは今月の出席シールを貼ります。お念珠とお経本を用意してお勤めの始まりです。大きな声で「ナムアミダブツ」とお念仏。続いて正信偈を全員で唱和します。長く続けている子どもたちは、上手に読めるようになりました。お念珠は今年四月の広大会で手作りしたマイお念珠を持ってきている子どもたちもいます。お経の後は、男先生（当院）による短いお話です。仏さまのお心をどうやったら子どもたちに伝えられるか、試行錯誤しながら話しています。

八月の「流しそうめん」のときは「ありがとうと当たり前」のお話をしました。「ありがたい」とは「有り難い」ということ。毎日当たり前のように新しい朝を迎えているが、それは、実は大変に尊いこと、それが当たり前と思っているうちは、「ありがとう」という言葉は出てこないといったお話をしました。

お話が終わると本堂や境内であそびをします。体を使って走り回る日もあれば、なにか工作をする日もあったり。子どもたちが楽しんでくれる姿を想像しながら、あれこれあそびを準備しています。





4月　入会式 お念珠作り



6月　シャボン玉あそび









7月　風鈴&スライム作り















今年は保育園から中学生までの子どもたちが参加してくれています。小さい子が入るときはゲームのルールをやさしくしてくれたり、譲ってくれたりと、異年齢だからこその学びがあるようです。子どもたちの大好きなゲームは「缶けり」です。皆、缶けりをしたことがなく、男先生から教わりました。

イベントのときにはおうちの方や地域の方が広大会を見に来て下さいます。温かく見守っていて下さる環境が、とても有難いです。子どもたちがお寺に親しんでくれること。仏さまと出会うきっかけとなっていること。今後も子どもたちにも開かれているお寺となるように、努めてまいります。

★ 今後の予定 ★

月1回土曜日	午前9時～ 無料
11/17(15時～)	親子ほうおんこう
12/22	キャンドル作り
1/26	お正月の遊び
2/23	本堂であそぼう
3/23	修了式
	パンケーキパーティー

コウフクジ×ヨガ　はじめました

広福寺本堂にて九月十八日（火）より、「コウフクジ×ヨガ　リラックスヨガ」が始まりました。夜七時頃より参加者の皆さんが集まり始め、二十名程の方が来てくださいました。始めに、皆さんと阿弥陀様を向いて合掌礼拝。その後は、講師の中村たえ子先生のご指示で呼吸を大事にしながら、体をゆっくりと動かし、いろいろなポーズをしました。たえこ先生の柔らかな声も心地よく、心も体も伸ばすことができました。最後は照明を暗くし、目を閉じて呼吸を整えました。「眠ってしまいそうだった。」と感想を述べられた方もいました。

また十九日（水）の午前中の「子どもとママのふれあいヨガ」には三組の親子が参加してくれました。産後の骨盤のケアや肩こり、腰痛が楽になる動きを教えて頂き、硬くなった体がほぐれました。子どもを抱っこしながらポーズをとったり、お母さんの真似をして一緒に同じ動きをしたりと、子どもと体を触れ合う時間を持つことができました。



体の中が温かくなるのがとても気持ちよかったです。





また来たいです。

全く初めてでしたが、先生がとても分かりやすく話して下さり、リラックスできました。

講師紹介

中村　たえこ　先生

弥彦村生まれ、弥彦村育ち。現在は弥彦村麓在住の門徒さんです。二〇〇九年より東京の大手スポーツクラブやヨガスタジオで指導を始め、二〇一三年に弥彦に戻り、井田にてヨガスタジオおひさま主宰。
https://studio-ohisama.jimdo.com



今後の予定

リラックスヨガ
・１１月　２日（金）
・１１月２０日（火）
・１２月　５日（水）
１９時半～２０時半　¥1,000
（1月～３月までお休み）

子どもとママのふれあいヨガ
・１０月２９日（月）
１０時～１０時半　¥500

申込不要　お気軽にご参加下さい

報恩講へのお参りを

広福寺では毎年十一月七日に報恩講がつとまります。報恩講とは文字のとおり恩に報いる講（あつまり）です。なにに報いるのか、それは浄土真宗を開かれた親鸞聖人の生涯を偲び、お念仏の教えを私たちに広めて下さったそのご恩に対してです。京都の本山では毎年十一月二十一日から二十八日まで、一週間に渡り報恩講が勤まります。広福寺ではそれに先立って、昔から十一月七日に報恩講を勤めてきました。

親鸞聖人は京都・日野の里にお生まれになり、わずか九歳にして出家得度、比叡山に登られ仏道修行の道を歩まれました。比叡山は当時の仏教の最高学府でした。二十年に渡り修行を重ねましたが、そこには親鸞聖人が求める救いの道はなかったのです。

比叡山を降りた親鸞聖人は、夢のお告げを受け、法然上人の下へ通うようになりました。そこでお念仏の教えに出遇うのです。これこそが自分自身が救われる道、自分以外のあらゆる人々が救われていく道だと確信されたのです。

お念仏の教えというのはすなわち阿弥陀様の教えです。阿弥陀様の願いとは、あらゆる人々がその命の大切さに目覚め、その命を尊いものとして生きることなのです。阿弥陀様はすべての人々に目をかけて、後生の心配はいらないからしっかり生きなさいと呼びかけてくださるから安心して生きていけるのです。阿弥陀様がいてくださるから安心してそこに頭が下がるから「ナムアミダブツ」と称えるのです。

阿弥陀様の教えに触れる、またその教えをあきらかにしてくださった親鸞聖人のご苦労とお徳をこの身に頂くことが報恩講にお参りすることだと思います。佛光寺第二十四代ご門主の随念上人のお手紙にこんな言葉があります。

もろともに一味和合の同行となりはんべらば、それこそ今月御正忌報恩講の本意たるべきものなり。

あらゆる人々が一味となり、和合してお念仏を同じく行とするようになることが、報恩講の本意なのです。一人でのお参りではなく、あらゆる人が一堂に会してお参りに参加する、みんなが同じお念仏の仲間として教えを聞いていく。この仲間という感覚が浄土真宗では大切なのかと思います。

今年ももうすぐ報恩講が勤まります。皆様、お念仏の仲間と連れだってぜひ本堂へお参りください。

（当院　記）

◆ご寄進をいただきました◆

麓二区・渡辺長兵衛様より石うすをいただきました。どっしりとした大きな石うすです。来月の広大会のもちつきに使わせていただきます。



◆ご寄進をいただきました◆

燕市吉田・武石石材工務店　武石順一様より、墓地北東の角（駐車場のとなり）に東屋（あずまや）を建築・寄進していただきました。お墓参りの際に休憩などにぜひご利用ください。安らげる場所になりました。



行　事　案　内

報恩講（おときづき）



11月7日（水）

【日中】勤行　午前10時より

法話　出雲崎　万因寺　高橋　速円師

【初夜】勤行　午後7時より

女性講



11月12日（月）

勤行　午前10時より

法話　月潟　梵行寺　木村　俊尚師

親子ほうおんこう・もちつき



11月17日（土）

勤行　午後３時より

法話　打越　佛照寺　花井　暁信師

リラックスヨガ

11/2(金)、11/20(火)

12/5(水)　(1～3月お休み)

19:30~20:30　¥1,000円

子どもとママのふれあいヨガ

10/29(月) 10:00～10:30　¥500

Instagram

SNSサービスの「インスタグラム」を始めました。
行事の様子や日常の一コマを発信していく予定です。
@Koufukuji_yahikoで検索してみてください。



発行者
広福寺
〒959-0318
新潟県西蒲原郡弥彦村麓6590
☎0256-94-2437